

各関係機関の長
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

令和4年度病害虫防除情報第7号

施設野菜のコナジラミ類について、各地域の発生状況を把握しながら適切な防除指導をお願いします。

施設野菜におけるコナジラミ類の発生が増加しています。 今後の発生に注意し、適切な防除を行いましょう。

- 1 作物名 施設野菜（冬春きゅうり、冬春ピーマン、冬春トマト、冬春いちご）
- 2 病害虫名 コナジラミ類（タバココナジラミ、オンシツコナジラミ）
- 3 発生状況（経過）

12月中旬の巡回調査において、県内の施設野菜各作物でのコナジラミ類の発生面積率は平年並～平年より多、発生程度は平年よりやや多～多であった（図1～8）。

(1) 冬春きゅうり（タバココナジラミ：やや多）

発生面積率：30.8%（平年22.8%、前年25.0%）

100葉当たり虫数：7.2頭（平年0.6頭、前年1.3頭）

平年よりやや多

平年より多

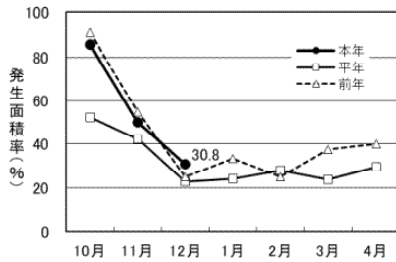


図1 発生面積率の推移

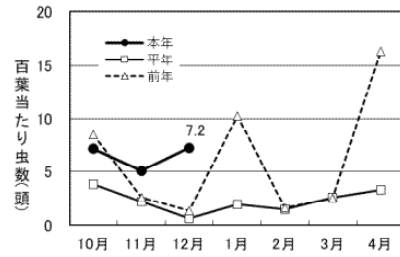


図2 100葉当たり虫数の推移

(2) 冬春ピーマン（タバココナジラミ：やや多）

発生面積率：58.3%（平年43.7%、前年66.7%）

100葉当たり虫数：5.8頭（平年2.2頭、前年6.7頭）

平年並

平年より多

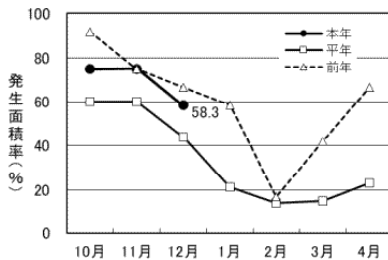


図3 発生面積率の推移

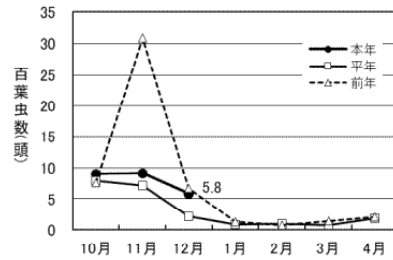


図4 100葉当たり虫数の推移

(3) 冬春トマト（タバココナジラミ：多）

発生面積率：100.0%（平年47.0%、前年50.0%）

100葉当たり虫数：11.6頭（平年1.7頭、前年3.0頭）

平年より多

平年より多

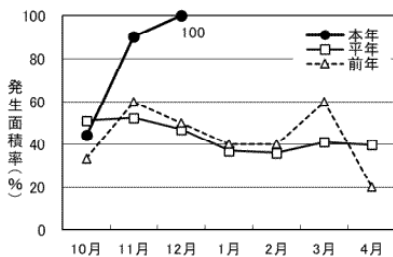


図5 発生面積率の推移

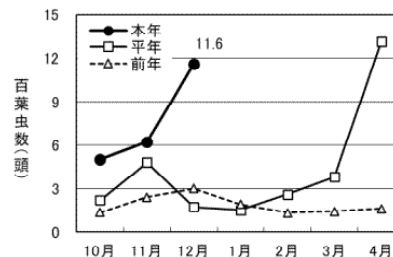


図6 100葉当たり虫数の推移

(4) 冬春いちご (コナジラミ類* : やや多)

発生面積率 : 8.3% (平年4.8%、前年8.3%)

葉当たり虫数 : 0.14頭 (平年0.08頭、前年0.09頭)

平年よりやや多

前年よりやや多

* オンシツコナジラミが優占種となっている

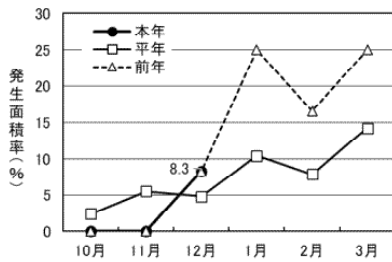


図7 発生面積率の推移

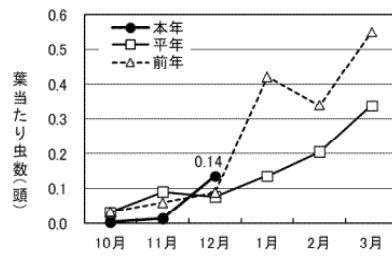


図8 葉当たり虫数の推移

4 防除上の注意

- (1) コナジラミ類は各種ウイルスを媒介するため (表1)、施設内で増殖しないよう防除を徹底する。
- (2) 施設内に黄色粘着板を設置し、早期発見に努めるとともに本虫の密度を抑制する。
- (3) 多発すると防除が困難になるため、低密度のうちに防除を実施する。特に下位葉及び施設内、施設周辺の雑草は生息・増殖の場所となりやすいため、薬剤散布による防除とともに、不要な下位葉の除去、施設内外の除草を徹底することで密度低下を図る。
- (4) 国内で薬剤感受性の低下が報告されるなど、薬剤の効果はほ場によって異なる場合があるため、薬剤散布後は防除効果に注意を払い、必要に応じて適宜追加散布を実施する。
- (5) 有効な薬剤に対する抵抗性の発達を回避する観点から、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を心がける。また、抵抗性発現の可能性が低い微生物農薬や物理的に窒息死させる気門封鎖剤を防除体系に組み込む。
- (6) 薬剤を散布する際には天敵や訪花昆虫 (ミツバチなど) への影響を考慮して剤を選定する。
- (7) 改植時には、周辺ハウスへのウイルス病拡散防止のため、薬剤を用いた残渣処理や施設の密閉処理を十分な期間確保して実施し、ウイルス媒介虫の死滅及びウイルス病罹病株の枯死を図る。

表1 コナジラミ類によって媒介される各作物のウイルス病

媒介虫	作物	病名	病原ウイルス名
コナジラミ類	キュウリ	退緑黄化病	CCYV (キュウリ退緑黄化ウイルス)
		黄化病	ToCV (トマト退緑ウイルス)
タバココナジラミ	トマト・ミニトマト	黄化葉巻病	TYLCV (トマト黄化葉巻ウイルス)

《連絡先》

宮崎県総合農業試験場 病害虫防除・肥料検査課
 (病害虫防除・肥料検査センター) 権葉
 TEL : 0985-73-6670 FAX : 0985-73-2127
 E-mail : byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp
 ホームページ : http://www.jppn.ne.jp/miyazaki